

2012 年度 観察採集会 報告

小田原市 わんぱくランド・いこいの森

池田博明

2012 年度の東京蜘蛛談話会観察採集会は神奈川県小田原市のわんぱくランド及びいこいの森で行った。発端は吉田嗣郎氏のわんぱくランドにおけるムツトゲイセキグモの卵のうの発見であった。卵のうは高さ 6m を超すカツラの樹木の枝先に作られていた。発見は 2010 年で、卵のうはその後も発見されているため、わんぱくランドのムツトゲイセキグモは偶産ではなく、定着しているにちがいない。通年の観察で生態の一環が明らかにならないだろうか。このような吉田氏の思いと、久しぶりの神奈川県西部域での行事として計画したものである。ムツトゲイセキグモの詳細に関しては吉田氏の報文に一任し、本稿はクモ相に関する記録について報ずる。

参加者名簿 会報にはフルネームで公開する予定

5 月 13 日 Ando , Ikeda , Ishiguro , Oikawa , Kakie , Kono , Koshiishi , Komine , Tanikawa , Nozoe, Hanai , Ogino , Hiyama , Honma , Mori, Mori , Morita , Yoshida

7 月 8 日 Asama , Arai , Ando , Ikeda , Ishiguro , Oikawa , Kakie , Kato , Kudo , Koshiishi , Shinozaki , Sumi , Tanikawa , Chikada , Ogino , Hiyama, Honma , Mori , Morita , Yoshida

10 月 14 日 Ando , Ikeda , Oikawa , Kaikie , Kono , Suguro , Tanikawa , Hanai , Hiramatsu, Honma , Mori , Morita

クモ 目録 配列は仮のもの。

< 5 月の記録 > 《 7 月の記録 》 [7 月 31 日の記録] 『 10 月の記録 』

F = Female 雌 , M = Male 雄 , f = 雌亜成体 , m = 雄亜成体 , n = nymph 幼体

E = 卵のう

< 当日 同定分 > () は仮の同定

トタテグモ科

キシノウエトタテグモ 《 巢 》 『 n 』

キノボリトタテグモ 『 巢 』

ジグモ科

ジグモ < n > 『 F 』

ユウレイグモ科

ユウレイグモ < n > 『 n 』

ウズグモ科

カタハリウズグモ <M f n> 《F》 『n』

マネキグモ [n] 『n』

オウギグモ 『F』

ヒラタグモ科

ヒラタグモ 《F》

サラグモ科

ユノハマサラグモ <F>

アシナガサラグモ 《n》 『F』

ハラジロムナキグモ 《F》

(ヤガスリサラグモ) 《F》

チビアカサラグモ 《F》

フタエツノヌカグモ 《F》

ヤミサラグモの一種 『n』

ヒメグモ科

ヒシガタグモ 《n》

ムラクモヒシガタグモ 《n》

オナガグモ <F> 《n》 [n] 『n』

シモフリミジングモ <F> 『n』

ボカシミジングモ 『m』

カニミジングモ 《FE》

バラギヒメグモ <F> 《F》

オオヒメグモ <Fmn> 《Fm》 『m n』

ハモンヒメグモ? 『n』

ヒメグモ 《n》 [FM] 『FE』

コンピラヒメグモ 《F》

ツリガネヒメグモ <n> 《F》

オオツリガネヒメグモ 《FE》 『F』

カグヤヒメグモ 《Fm》

サトヒメグモ <F>

ムナボシヒメグモ <F> 『n』

チリイソウロウグモ 《m》 『n』

クロマルイソウロウグモ 《FME》 『n』

スネグロオチバヒメグモ 《F》

ヤリグモ 《F》

コケヒメグモ 《F》

センショウグモ科

センショウグモ 《F》

コガネグモ科

アオオニグモ <F> 《F》

ビジョオニグモ 『F』

カラフトオニグモ 『n』

チュウガタコガネグモ <F> 《F》 『n』

ナガコガネグモ 《n》 『F』

ムツボシオニグモ <FM> 《F》

キザハシオニグモ 『n』

カラオニグモ 《F》

マルツメオニグモ 《F》

ヌサオニグモ 《F》 [F]

ギンメッキゴミグモ <Ff> 《n》 『Fn』

ヤマトゴミグモ 《F》 『n』

ヨツデゴミグモ <nm> 《F》 『n』

ゴミグモ <FMm> 《FE》 『n』

キジロゴミグモ <F> mtDNAによる同定

ヤマトカナエグモ <n> 《E》

トリノフンダマシ 《n》

アカイトリノフンダマシ 《f》

シロオビトリノフンダマシ 《Ffn》 白帯型・黒型

ムツトゲイセキグモ 《n》[Mf]

ヤマシロオニグモ <n> 『M』

シロスジショウジョウグモ <m> 《F》

サガオニグモ <F>

サツマノミダマシ 《f》

ワキグロサツマノミダマシ 《n》 [fn]

ジョロウグモ科

ジョロウグモ 《n》 [n] 『FM』

アシナガグモ科

コシロカネグモ <n>

チュウガタシロカネグモ 《F》

オオシロカネグモ 《F》

キララシロカネグモ 《F》

(ウロコアシナガグモ) <n> [n]

シナノアシナガグモ <n>

キンヨウグモ 『F』
メガネドヨウグモ <F> 『n』
タニマノドヨウグモ 《F》

タナグモ科

クサグモ <n> 《n》
コクサグモ 《n》 [n] 『F』
ヤマヤチグモの一種 <n>

カラカラグモ科

ヤマジグモ 《FE》

コモリグモ科

ウツキコモリグモ <Fy> 《F》
イナダハリゲコモリグモ 《FM》
ハリゲコモリグモ 《FM》
ハラクロコモリグモ 《M》 『mf』
クラークコモリグモ <F> 《F》
チビコモリグモ 《F》

キシダグモ科

アズマキシダグモ <mn> 《FE》 『n』
イオウイロハシリグモ <n> 『n』
アオグロハシリグモ 《n》 『n』

シボグモ科

シボグモ <f> 《FM》

ササグモ科

ササグモ <n> 《FM》 同定ずみ 『n』

フクログモ科

ヤハズフクログモ <F>
ヒメフクログモ 《M》

ツチフクログモ科

カバキコマチグモ <n> 《Mfn》

ウエムラグモ科

イタチグモ 《n》 『F』

ネコグモ科

オトヒメグモ 《F》 『F』
ネコグモ <F> 『n』
オトヒメグモ <F>
キレオビウラシマグモ <M> 《F》

ヤバネウラシマグモ 《FM》
コムラウラシウマグモ 《n》
オビジガバチグモ 《F》

ワシグモ科

メキリグモ 《F》
エビチャヨリメケムリグモ 《F》
ヤマトフトバワシグモ 《F》

カニグモ科

アズチグモ 《n》
ガザミグモ <FM> [n]
ヤミイロカニグモ <FM> 《FM》
ワカバグモ <FMn> 『n』
コハナグモ <n> 《fM》
ハナグモ 《F》 『n』
セマルトラフカニグモ 《FM》
トラフカニグモ 『n』
マツモトオチバカニグモ 《F》

エビグモ科

キハダエビグモ <FM> 《F》
アサヒエビグモ <n> 《F》[FE] 『n』
シャコグモ <Fn> 《F》 『n』

ハエトリグモ科

ネコハエトリ <FM> 《F》 『n』
マミジロハエトリ <FM> 《M》 『Mn』
アリグモ <n> 《FE》
イナズマハエトリ <n>
デーニツツハエトリ <Fn> 『Mn』
コジャバラハエトリ 《FM》
チャスジハエトリ 《F》 『n』
アオオビハエトリ <M> 《F》 『Fn』
シラホシコゲチャハエトリ 『M』
キレワハエトリ? 『n』
ヤマジハエトリ <FM>
ムツバハエトリ 《FM》 『n』
ヒメカラスハエトリ 《M》
未知種 *Chinattus* sp. 《FM》

生態に関する記録

5月15日

チュウガタコガネグモの雌成体が5月に見られたのは意外だった。
チュウガタコガネグモの網にあったラップされた餌はハナバチであった。
小さなヤマトカナエ(幼体)が自分の数倍あるユノハマサラグモ雌にかみついていた。
ムツボシオニグモ雄の胸部に8匹のタカラダニが取り付いていた。

7月8日

セマルトラフカニグモの雌成体が雄成体の腹柄あたりにかみついていた。新井氏発見。
ムツガイセキグモ(幼体)がいこいの森でササの葉裏(1.7m)で萩野氏により発見された。

二日前にはササグモの雄が盛んに求愛しているのが観察された。及川・近田両氏より。

時期とサイズから亜成体とみた体長4mm、腹幅4mmのシロオビトリノフンダマシが翌日産卵した。持ち帰った他の個体も雌成体だった。

斑紋が暗色のカグヤヒメグモ。腹部背面突起は目立たないが黒環があり、メスの外雌器は開口部の下に受精嚢がある。

7月31日

ムツガイデキグモ雄成体と雌亜成体を新井浩司氏が発見。雌はマメザクラの地表2m10cmの葉裏で住む。

アサヒエビグモがキュウイの葉を丸めて卵のうをガードしていた。

10月14日

キンヨウグモが卵のうをガードしていた(丹沢にて及川氏観察)。